

“ふたばは人つ”  
本当の復興はこれから

まつもと ひろゆき  
松本 広行

檜葉町ユズ研究会 会長

昭和30年（1955）、檜葉町生まれ。  
双葉地方町村会の事務局に勤務のかたわら、有機栽培米とユズ栽培を手がける。  
檜葉町の帰還困難区域指定が解除された2015年、避難先から町へ戻り営農を再開。

ユズ研究会の仲間と「<sup>ならは</sup>檜葉のユズで特産品を作ろう」と、2010年、  
喜多市市のほまれ酒造の協力のもと、ユズ酒「<sup>りあい</sup>ゆず里愛」を造った。  
町内の酒屋で販売したら、すぐに売り切れ。「来年はもっと多く作っぺ」と、  
翌年の2011年に2,000本仕込んでもらったんだ。  
その矢先の原発事故発生。町からみんな避難した。一時帰宅したとき、  
家も庭も田畑も荒れ放題なのを見て、「これじゃもう戻れないな」と悲しかった。  
その後、国が除染をはじめ、草1本もないほどきれいに。  
「これならみんな戻れるんじゃないか」と希望が出てきた。  
2016年に双葉地方町村会事務局を退職したあと、単身で町へ戻り、  
「少しでも復興の後押しができれば」と荒れた土地の草刈りをした。  
白河市の千駒酒造の協力を得て、ユズ研究会の仲間とユズ酒造りも再開。  
互いに支え合ってここまで進んできたんだと思う。  
双葉地方の8町村には、まだ帰還困難区域がある。国には復興拠点区域外の  
荒れた土地をきれいにして、みんなが早く戻れる環境をつくってほしい。  
震災後、事務局の作業衣に“ふたばは<sup>ひと</sup>人つ”と文字を入れた。  
全町村が元通りになって、はじめて双葉地方は復興する。  
檜葉だけがよくなってもダメなんだ。双葉は人つ（一つ）なんだから。



「支え合って復興していくぞ！双葉郡の心は一つ！」と思いを  
込め、東京福島県人会振興会の支援を受けて作った